

にいがた

北から南から



「秋葉区に児童館を！」

平田 洋子

秋葉区には児童館がありません。

児童館は、0～18歳の子どもたちが無料で利用できる、自由に遊べる子ども居場所です。

数年前、荻川地域の懇談会で、子ども居場所となる児童館がほしいという声が上がりました。

その後、有志で、白根と豊菜の児童館を見学に行きました

荻川地区に児童館がほしいという要望でしたが、秋葉区に児童館がひとつもないのですから、まず秋葉区に児童館設置を求めていくことにしました。

昨年12月の市議会で、日本共産党の倉茂政樹議員が児童館設置を求め一般質問をしまし

た。市の答弁は、新しい公共施設は造らないという方針の説明でした。

今年4月に新潟市議会議員選挙が行われ、倉茂候補は「福祉・子育てを市政のど真ん中に」と公約を掲げ、「秋葉区に児童館を」と訴え市民の関心を集めました。

6月に、「秋葉区に児童館を求める会」準備会を立ち上げ、7月23日(日)に児童館学習会を行いました。

児童館学習会(7月)とスタート集会(9月)児童館学習会では、白根北児童館の活動をサポートする「きたもんクラブ」代表の織田絹子さんのお話を聞きました。

織田さんは、1991年に神奈川県から白根市へ転居し、当時白根になかった児童館をつくる運動を、私設児童館活動に取り組みながら20年続けました。2012年に白根北児童館が完成した後も10年間「きたもんクラブ」として児童館をサポートし続けています。

白根市は新潟市と合併する際に、南区内に



4カ所の児童館を設置しました。白根市で従来から取り組んできた児童館設置運動があったからこそその成果ではないでしょうか。

この児童館学習会には27名の参加者があり、カンパも集めることができました。

その後、準備会会員のカンパと学習会のカンパで、児童館のチラシやポスターを作りました。署名用紙も作り、学習会参加者にもよびかけて、8月28日に「秋葉区に児童館設置を求める市民の会」を発足しました。

9月から署名集めを開始しました。チラシと署名の折り込みをしたのは、新潟勤医協健康友の会の「明るい医療」、「新婦人しんぶん」、「しんぶん赤旗」などです。

友人、知り合い、近所のごとも園、地域へも入って署名を集めました。

もつと児童館の必要性を広め多くの署名を集めるために、9月18日に「スタート集会」を開きました。

集会には、北区の早通りコミュニティ協議会会長、市内の児童館長のお話を聞きまし

た。早通りコミュニティ協議会会長さんからは、児童館が地域の拠点の一つになっていること、児童館長さんは、児童館の必要性についての訴えと子ども居場所として大切であることが話されました。

そして、参加者の子どもを持つお母さんと孫のサポートをする祖母の立場から、子どもをとりまく状況や困っていることを話してもらいました。「秋葉区に児童館がないため、他区の児童館や他市の施設に行かざるを得ない」「暑い夏でも過ごせる屋内の居場所がほしい」「行くところがないと子どもたちは家でゲームばかりになってしまう」などが出されました。

「スタート集会」には37名が参加し、カンパの協力もいただきました。

10月8日(日)下越病院の健康まつりでも署名にとりくみ、130筆集まりました。

10月13日の「FMにいつ」の「なじらねラジオ」に、市民の会代表の板橋育夫さんが出演し、児童館の役割や活動の実践例を紹介し、

にいがた

北から南から



秋葉区にも児童館設置をと訴えました。

この頃、署名活動を始め1カ月たち、署名数が1000筆に達しました。

10月から地域訪問行動

児童館の必要性を子育て世代に訴え、さらに多くの署名を集めようと、10月21日(土)に若者世帯が多く住む荻川地区のみそら野で、訪問署名行動を行いました。集める署名は2種類、児童館設置と学校給食無償化を求める署名です。

行動日の4〜5日前に、ふたつの署名とチラシと「10月21日に回収にうかがいます」のメモを入れた袋を、400軒にポストインしておきました。

当日は、雨の中25名の参加者があり、2人一組で11グループ作り、訪問しました。宣伝カーも運行しました。

不在の家も多かったのですが、署名を用意して渡してくれる方もいました。

「秋葉区だけに児童館がないのはひどい」と

驚く方もいました。

約100軒から署名を集めることができ、それぞれ約200筆ずつ集まりました。

小中学校やこども園、学童保育クラブへも署名のお願いに行きました。学童保育クラブは協力してもらえませんでした。こども園では職員が署名してくれたところもありました。子ども食堂でも署名を集めました。

11月5日(日)に、2回目の訪問署名行動を行いました。さつき野、美善地域の500軒です。22名が参加し、児童館の署名は158筆、給食無償化の署名は195筆集まりました。今回も事前に、回収にうかがうことと不在の場合は署名簿をドアに貼っておいてくださいと書いた袋をポストインしておいたので、ドアに貼ってくれていた家は何軒もありました。「学校で児童館の署名をやった」と話の方もいました。

3回目の訪問署名活動は、11月19日(日)に美善、本町で行います。



請願署名2500筆(11月)突破

大勢の方の協力で、11月上旬には、署名が2500筆に到達しました。

児童館設置を求める市民の会のチラシを3号、ニュースを4号発行しました。

4000筆を目標に、署名の集約を11月30日とし活動しています。

多くの人たちの力で、運動が区民に広がりつつあります。

新しい施設は造らないという新潟市に対して、18歳以下のすべての子どもたちが安全にすごせる児童館は、すべての区に必要であると訴え、運動で切り開いていきたいと思えます。子どもたちが、安心してのびのびと遊べる児童館は、子どもの夢や希望を育む居場所となることでしょう。

(ひらた ようこ・秋葉区に児童館設置を求める市民の会)

新潟市当局への申し入れと、
10・1「ピースフェスタ」
を主催して

高野 千弥子

「ピースフェスタ in 古町」実行委員会は、9月26日、新潟市副市長と面談し、「平和資料館」の建設を要請しました。新潟市当局からは、野島副市長、古俣総務部長、岩淵総務課長、萬歳歴史文化課長が対応しました。この要請行動で、「非核都市宣言の新潟にふさわしい戦争資料の保存・整備」「それら戦争資料の保存・展示をするための戦争資料館(仮称)の建設」「平和教育の一環としての資料館の活用」などの申し入れをしました。対応された市当局からは、「財政的に新たに施設を設置する計画については難しいが、既存